

# ニユーズ済生

THE NEWS SAISEI



発行所  
社会福祉法人 済生会  
東京都港区三田1-4-28 三田国際ビルディング21F 〒108-0073  
電話 03-3454-3311  
FAX 03-3454-5576  
編集兼発行人 炭谷 茂

https://www.saiseikai.or.jp/

## 大型店内に福祉の拠点

### 北海道小樽 「済生会ビレッジ」 まちづくり

北海道小樽市の大型商業施設「ウイングベイ小樽」に北海道済生会の介護・児童福祉の拠点となる施設群「済生会ビレッジ」が3月1日、オープンした。これまで病院等に併設されていた施設をショッピングモールの中に「出店」したかたちで、本会が進める「まちづくりへの寄与」のモデルケースとして注目を集めた。



済生会ビレッジ (左から榎引常務理事、城守・北海道済生会副会長、近藤支部長、橋本社長)



済生会ビレッジ内のきつてらす

ウイングベイ小樽は、JR小樽駅から2駅札幌寄りの小樽築港駅に直結し、ヨットなどを係留するマリナーのそばに位置する。地上4階建て延べ床面積34万㎡。運営は株式会社小樽ベイシティ開発(橋本茂樹社長)が当たる。イオン、ニトリ、しまむら、無印良品などがテナントとして並び、映画館やボウリング場などのアミューズメント施設のほか郵便局などもある。「済生会ビレッジ」はその1階中心部のエリア(約500㎡)に開設。市道を挟んで山側にある小樽病院内にあった「小樽市南部地域包括支援センター」(指定居宅介護支援事業所はまなす)を移設し、市街地を軸とした市民の利便性の向上を図った。新規事業として児童発達支援や放課後デイサービスを行なう「きつてらす」を開設し、専門職による個別指導や、商業施設内での社会体験等、特色あるサービスを提供する。また、血糖値や尿酸値、PSAなど気になる項目を選んで検査できる「ちょこっ」と健診の自動販売機も設置。買い物ついでに気軽に健康管理をしてもらえる仕組みも用意した。

北海道済生会と小樽ベイシティ開発は2020年7月、小樽築港地区で協働してまちづくりを進めるウエルネスタウン構築に関する協定を締結。済生会ビレッジはその一環で、3月1日のオープンセレモニーで、道済生会の近藤真章支部長が「ウイングベイ小樽の一部をお借りしてサービスを提供すること、これまで以上に小樽市の皆様のお役に立ちたい」と挨拶。榎引久丸常務理事は「今までの事業の枠にとらわれない新たな価値を提供できるように取り組んでいく」と訴えた。橋本社長は「巨大商業施設が生まれ変わることで、この地域をより発展させていきたい」と抱負を述べた。

今後、商業施設の各企業・飲食店の協力を得て「ウイングベイ小樽フードバンク」設立を計画するほか、健康で豊かな生活づくりを応援する「ウエルネスチャレンジ事業」などを展開。健康・福祉の面から地域の課題を解決し、ソーシャルインクルージョンの実現を

### 高松宮記念基金にご協力ください

令和3年1月～2月分実績

◎本会会員加入状況	34,907人	82.6%
	39,808口	7,961万円
◎外部会員加入状況		
◎一時寄付状況	9件	21万円
	(内、自販機関係)	5万円
◎募金箱		7万円

目指す。  
(小樽病院 済生記者 松尾覚志)  
※「済生4月号」で橋本社長と近藤支部長の対談を掲載します。

### 4議案を審議

施設運営委員会が3月2日、本部で開かれた。審議5件、報告5件だった。

- 【審議】①資金借入(案) ②令和3年度整備計画(案) ③県央基幹病院の



施設運営委員会



共済事業運営委員会



損害填補審議会

### 令和3年度予算承認

共済事業運営委員会が2月19日にオンラインで開かれ、令和3年度事業計画及び同会計予算(案)を審議、原案どおり承認された。

同計画(案)では、共済員数を2万6731人

### 資産総額は48億円へ

済生会が所有する建物や機械等の事故による損害を補償する「損害填補事業」について、同事業の適正な運営を行なう損害填補審議会が2月12日にオンラインで開かれ、令和3年度事業計画及び同会計予算(案)を審議し、原案通り承認された。

収入は損害填補補金2億2400万円、保険金3000万円、利息等3900万円の合計2億6600万円と見込んだ。支出は、再保険料6500万円、損害填補金の支払い6300万円、諸経費500万円の合計1億3300万円を見込んだ。この結果、3年度の収支差額は1億3300万円の黒字となり、資産総額は約48億円となる見込み。

## 黙とう 東日本大震災から10年



奇跡の一本松に向かって黙とうする陸前高田診療所のスタッフ



NHK放送に合わせて黙とうする本部役員

東日本大震災から10年となった3月11日、高田診療所では発生時刻の午後2時46分に合わせ、黙とうした。

また、本部事務局でも炭谷茂理事をはじめ職員全員が、NHKテレビで放送された政府の追悼式に合わせて1分間の黙とうをささげた。

- 寄贈 (厚生課)**
- 栃木県済生会 50万円
  - 茅野理子殿 (宇都宮病院へ)
  - 村上和男殿 (川口総合病院へ)
  - 東京都済生会 50万円
  - 陳 科榮殿 (今治病院へ)
  - 由井克巳殿 (中央病院へ)
  - 100万円
- 人事**
- 富山県済生会 3・1
  - 委員長 新田八朗
  - 神奈川県済生会 100万円
  - 豊岡商店街協同組合理事 長・堀江幹雄殿
  - (横浜市東部病院へ)
  - 石川県済生会 100万円
  - 馬場 貢殿 (金沢病院へ)
  - 福井県済生会 78万円相当
  - 岩崎義範殿 歩行器(178万円相当)
  - (福井県済生会病院へ)
  - 愛知県済生会 500万円
  - 名古屋商工会議所会頭・山本亜士殿 101万円
  - (青い鳥医療療育センターへ)
  - 滋賀県済生会 500万円
  - (滋賀県病院へ)
  - 京都府済生会 100万円
  - 松本徳衛殿 (京都府病院へ)
  - 大阪府済生会 50万円
  - 歩田栄一殿 (吹田病院へ)
  - 森 多加子殿 100万円 (富田林病院へ)
  - 平居啓治殿 電動ファン付呼吸用保護具他(79万円相当)
  - (泉尾病院へ)
  - 愛媛県済生会 50万円
  - 松野 剛殿 (今治病院へ)

### 公的病院三団体協議会 新型コロナウイルスでの貢献確認

済生会・日赤・厚生連の公的病院三団体で構成される日赤等三団体病院協議会の情報交換会が2月24日、Webで開催された。

済生会の松原了理事をはじめ、各団体の役員・幹部職員が出席して、令



### MSW生活困窮者支援事業 研修会オンラインで

令和2年度MSW・生活困窮者支援事業研修会が2月26日に開かれ、MSW68人が参加。新型コロナウイルスの影響でZoomを活用し完全オンラインで実施した。

炭谷茂理事長は「済生会におけるMSW事業の理論と方法」と題し「MSWは地域課題の解決の中核になるべき存在。皆さんが日本の医療ソーシャルワーカーをリードしてほしい」と述べた。本部長 山内敦室長は「済生会の歴史と使命から考える生活困窮者支援」について、済生会と生活困窮者支援の歴史を講義した。(大阪) 中津病院 地域医療連携センターの富士川浩子氏が無料低額



診療事業等の取り組みを報告、具体的な実践を共有した。

グループワークでは、受講者が12のグループに分かれ、伊藤直行氏(山形)、神田義則氏(新潟)、岩崎圭介氏(静岡)、南本宜子氏(京都)、平田正彦氏(呉)、松尾美穂氏(日田)がサポートする中、コロナの影響と済生会に期待される支援などを議論した。

受講者からは「済生会のMSWであることに誇りをもって仕事をしたい」「済生会のMSWとして院内にとどまらず地域でも広く活躍できる存在になりたい」といった意見があった。また、オンラインでの実施については「初めてで不安だったが事前の丁寧な説明があったよかった」「子育てで中々出張ができないためオンラインで研修に参加できてよかった」など好評だった。

閉会後も一部の受講者はZoomを使って、情報交換を実施して交流を図った。

(社会福祉・地域包括ケア課)

同様に推移した。その他、法人としての災害時に備えた体制整備、コロナ後を見据えた経営の見直しなど様々な課題が挙げられた。

昨年7月以降、コロナ受け入れに大きな貢献をしている公的病院三団体が連携して、国、都道府県、議員連盟等に財政支援要請を継続的に行なってきた効果が現れていることが報告された。来年度以降も、十分な財政支援の継続、診療報酬特例の継続、クラスター対応費用の支援等を、引き続き三団体として国に対し強く要請していくことが確認された。(経営管理課)



### 医療情報システムの最新動向を学ぶ研修

情報システム研修会が2月18日と25日にWebで開かれ、支部や病院の

情報システムの責任者・担当者ら両日合わせて180人が参加した。

新型コロナウイルス感染拡大により研修の機会が減少する中でも医療情報システムを取り巻く最新の動向やIT技術を学び、各病院での効率的な情報システム整備を進めることが目的。18日はトレンドマイクロ社が「医療機関に

おけるサイバーリスクマネジメント」と題し、近年、医療機関で発生したセキュリティ事故を事例にネットワーク監視システムの導入や優先度の高いサーバーのセキュリティ対策強化の重要性を説明。今年1月に改定された「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」の概要も解説した。

25日にはデル・テクノロジーズ社が、医療情報システムの基盤となるサーバーを仮想化し、コスト削減を実現する手法を紹介した。

質疑応答では、障害発生時の責任範囲が仮想サーバーのメーカーなのか業務システムのメーカーなのかといった「責任分界点」の課題や複数の部門システムを統合する手順等、導入検討に向けた具体的な質問・意見が寄せられ、仮想化技術への関心の高さがうかがえた。

(情報管理課)

4月の予定

- 6日 支部長会議 (本部)
- 9日 医療施設長会議 (本部)
- 15日 社会福祉施設長会議 (本部)
- 21日 看護部長・副学長会議 (本部)

### 障がい者就労の実例集

自動販売店での洗車、有料老人ホームや大学構内での清掃、ハープの水耕栽培、配送センターの荷物管理、国出先機関での事務補助、ドラッグストアの店内作業などの実例を、就労につながったポイントと受け入れ先の感想を併せて紹介している。

(事業推進課)



# 笑顔、応援したい!



## 高松宮記念基金にご協力ください

基金はここで役立っています

★東日本大震災の復興支援のため岩手・陸前高田診療所を建設 ★子ども食堂など地域を守る活動へ ★生活困窮者への医療費や利用者負担額を減免する施設への支援 ★保育所の園庭や遊具の整備等 ★国際協力・マンパワー育成 [寄付は1口2千円から。所得税の控除があります]

お問い合わせ・お申し込みは 各施設の窓口、または  
社会福祉法人 済生会 高松宮記念基金対策室  
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル21階  
TEL: 03-3454-3311 (代) FAX: 03-3454-5576